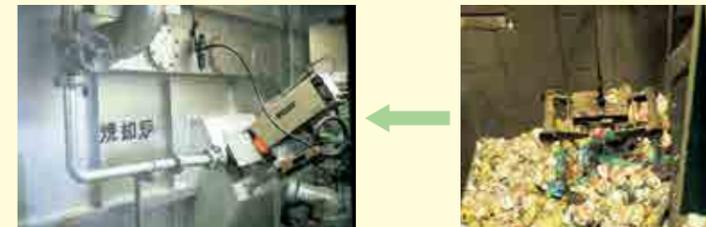


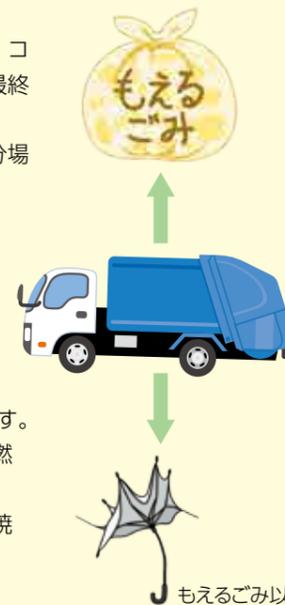
# 足柄西部環境センター

開成町で出たごみの多くは、山北町にある「足柄西部環境センター」に運ばれます。ここでは主に、もえるごみ、カン・金物類、セトモノ類・ガラス製品、粗大ごみを処理しています。



▲焼却炉 ▲ごみクレーンで焼却炉へ

もえるごみはごみクレーンで袋を破りながらバラバラにし、コンベアで焼却炉に運び焼却します。焼却後の灰は長野県の最終処分場へ運ばれます。焼却されたもののうち不燃性のごみは不燃物として最終処分場で埋立てます。



破砕機で破砕して、鉄、アルミ、不燃物、可燃物に分けられます。鉄とアルミはリサイクル、不燃物は最終処分場で埋立、可燃物は焼却されます。ふとんなど、粗大ごみでも可燃性のもは細かく切断して焼却されます。

## 正しいルールでごみを出しましょう！

足柄西部環境センターで、開成町から搬入されるごみの処理作業に日々携わっている、JFE環境テクノロジー株式会社足柄西部事業所 工場長小椋文男さんにお話を伺いました。



### 開成町のしみ

足柄西部環境センターでは山北町と開成町のごみを処理しています。開成町で出されたごみのうち、当施設に令和3年に搬入されたごみは約6534トンでした。

山北町との人口比で見ると、開成町からのごみはそれほど多いわけではないと思います。これは、町民の皆さんがきちんと分別していたに由来していることも理由の一つだと思います。また、開成町のごみは「生活ごみ」が多いのが特徴です。当施設に搬入される開成町のごみの約58%が生ごみや紙類などの燃えるごみで、ごみ自体の重さが軽いこともごみの量がそれほど多くない理由の一つかもしれません。

### チリも積もれば山となる

もえるごみの中には、微量ですが金属類が含まれています。当施設で処理するもえるごみの中には含まれている、金属類などの燃えるごみは年間15トンほどです。6534トンのうちの15トンと考えると少ないように感じますが、ひと月あたりで考えると、毎月1トン近くの金属類が混ざっていることになります。

### キケン！電池の取り忘れ

ごみを出すうえで特に気を付けていただきたいのが、リチウムイオン電池の取り忘れの確認です。リチウムイオン電池は強い刺激を加えると発火する特性があります。ごみ処理の作業内で加わる衝撃によって発火してしまうのです。発火すると作業を中断して消火し

### なぜ分別が必要か？

限られた資源を大切にするためにごみを分別する、ということはもちろんですが、ごみを処分するうえで、ごみ出しルールを守り、ごみを分別していただきたい理由があります。

ごみは種類によって処理方法が異なります。前述のように、リチウムイオン電池が適切な方法で分別されていないと、機械の破損や火災につながります。また、正しいごみの分別ができていても、決められたサイズにしてお出しただけだと機械の中でごみが詰まったり、機械の破損につながったりしてしまうこともあります。

「生ごみの水切りをしましょう」というルールがありますが、水を多く含んでいることでごみ全体の量が増えるだけでなく、ごみの焼却にも影響があります。ごみが重いと、ごみを収集される作業員の方々も大変ですよ。ごみが出たら捨てて終わりではなく、なぜ、このルールでごみを出す必要があるのか、それぞれのごみがどのような工程で処理をされるのか、改めて考えていただけたらうれしいです。正しいルールできちんとしたごみの分別を、引き続きよろしくお願いします。

## 開成町 グリーンリサイクルセンター

持ち込まれた木の枝や葉はどうやって堆肥になるの？



① 3種類の破砕機で細かくします。

② 選別機で1cm以下のものは堆肥にするため発酵槽

③ 発酵させること約1年。ようやく堆肥が完成！



▲開成町グリーンリサイクルセンターのご案内



開成町グリーンリサイクルセンターは、未利用資源を減らす目的で開設されました。当施設には、年間1,000トンから1,100トンほどの剪定枝や葉、草が運び込まれ、200トンから300トンもの堆肥に生まれ変わります。資源ごみとして剪定枝や葉、草を出したり、グリーンリサイクルセンターに直接持ち込む場合には、機械トラブルにもつながりますので、規定の大きさに切ってから出してください。また、竹や根は堆肥にならないため、受け入れができません。土や石ごみ等が混ざっていない状態で出してください。ご利用方法など、お気軽にご相談ください。



開成町グリーンリサイクルセンター長 近藤 誠 さん